

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



「リコーダー」

ある児童のリコーダーへの苦手意識が小さくなることを願いながら、手指のスムーズな動きをめざしてさまざまな活動に取り組んでいたある日のことです。

※ 荒:荒井 児:児童

荒:先生が言った指を動かしてね。右手の親指。…指示を出しながら、教師も指示通りのポーズをとる。

児:…向かい合わせのため、左手の親指を動かす…

荒:先生が言った指だよ。

児:あっそうか。先生と反対になるんだ。…教師の動きをよく見ていたことは伝わってきたが、指示にあった行動がとれなかったことは課題である…

荒:右手の中指。

児:…動かすべき指はわかったが、自分の意思では動かせず、左手で補助をして動かす…



リコーダーを吹くときのポイントは、①よい姿勢で、リコーダーを持ち続ける ②それぞれの指の動きを意識する ③見る力を養い、譜面を読む ことです。

3年生から始まるリコーダーの授業が、つらく大変なものにならないように、1・2年生のうちから先取り活動をしてみてはいかがでしょうか。家庭や学校で取り組めることを紹介します。

リコーダーが苦手になる要因は、必ずしも手指の不器用さだけではありません。新しい物への不安感が先立つ場合もあります。そのためにも、先取り活動で慣れておくことは意味があると思います。

何気ない普段の生活の中で子ども達が身に付けてくれたことが身に付きにくい時代になっています。子どもの特性だけではなく、生活の変化にも対応していくことが求められています。

～身体イメージがとらえにくい場合～

○ 手遊び、指遊び

身体イメージ力を高める。身体イメージを捉えにくい場合には、指を自由に動かすことが非常に難しくなってくる。例えば、指で狐を作った見本をまねしてみるといった、指の形をまねるような遊びをすることで、指のイメージを高めていく。



○ プチプチつぶし

親指の操作力を養う。素手で行う。親指の指紋部を使って緩衝材のプチプチをつぶす。親指とほかの指を向かい合わせてつぶす。リコーダーの穴ふさぎにつながる。

○ ペットボトル振り

腕の力を養う。ペットボトルに水を半分くらい入れて、ペットボトルを落とさないように両手の指だけで持ち、立って力いっぱい振る。腕の保持力を鍛える。

○ ジャングルジム・肋木の活用

腕の力を養う。ジャングルジム・肋木に登る。手首の力や腕の保持力を鍛える。

(鴨下賢一, 発達が気になる子への生活動作の教え方, 中央法規, 2013, p.117 参照)

(笹田哲, 体の動き指導アラカルト, 中央法規, 2012, p.84 参照)